説教20210402　詩編22 ヨハネ19：16-30

「近くにいます神」 398　142

キリストよお越しください。弟子たちの中に立ち、復活の御姿を現されたように、私たちの内にもお臨み下さい。

 いよいよ四月に入り、私たちは遂に受難日を迎えました。思い返せば一年前は、コロナ渦中の動揺が激しく、また私も別府にきて間がなくて、てんやわんやの内に受難日そしてイースターを迎えたような記憶があります。しかしそれから一年が経ち、教会で、皆さんに寄り添い、思いやる生活を続ける中で、様々な形の悲しみや苦しみ、そして喜びや希望があることが知らされました。

　今日も朝4時に牧師館のインターフォンがなって、出てみれば革ジャンの男の人が「神父さんか牧師さんよ、聞きたいことがある」と言うので応対いたしました。最初は上半身裸になって刺青を見せびらかしたりして、随分けったいな人がきたなーと少々おっかなびっくりしていましたが、よくよく話を聞いていくうちに、彼は溶接工としてしっかりとした技術を持っており、全国各地の発電所のプラント工事を請け負っている方だという事が分かりました。そして真面目に仕事を続けておられることが分かりました。

　このように世の中いろいろな人がいるわけですが、今日の詩編22編でダビデ王が嘆いている通り、この世に生きる者は皆、本来、「わたしの神よ、わたしの神よ／なぜわたしをお見捨てになるのか。なぜわたしを遠く離れ、救おうとせず／呻きも言葉も聞いてくださらないのか」とうめく者たちであります。金持ちも貧しい人も、王様も召使いも、この世では塵から生まれ塵に返る生涯を過ごしているのです。ダビデ王は「あなたはわたしを塵と死の中に打ち捨てられる」と言って主なる神に不平を慣らしています。今日は詩編22編を全部お読みしましたが、しかしダビデ王は最後には主なる神を信頼し、「命に溢れてこの地に住む者はことごとく／主にひれ伏し／塵に下った者もすべて御前に身を屈めます。わたしの魂は必ず命を得　子孫は神に仕え／主のことを来るべき代に語り伝え／成し遂げてくださった恵みの御業を／民の末に告げ知らせるでしょう」と言って、神を賛美し、喜ぶ者とされるのです。

　聖書はハッピーエンドの書であります。新約聖書の最後のページをみてください。「わたし、イエスは使いを遣わし、諸教会のために以上のことをあなたがたに証しした。わたしは、ダビデのひこばえ、その一族、輝く明けの明星である。」“霊”と花嫁とが言う。「来てください。」これを聞く者も言うがよい、「来てください」と。渇いている者は来るがよい。命の水が欲しい者は、価なしに飲むがよい」とある通り、そこには福音の結末が記されています。しかし、聖書という書物は長すぎて、しかも最初から最後まですんなりと読み通せるものでもない、と思われる方も多いのではないでしょうか。その通りです、ですから私たちは毎週、教会に集められ説教を聞いて、聖書の解き明かしに耳を傾けたり、或いは牧師館を突如訪問されて、牧師と話をしたりすることでしょう。

　それらのことも、全て、今日の説教題、これは昨年の受難日礼拝と同じ説教題でありますが、「近くにいます神」を私たちが実感したいからでありましょう。つまり、この聖書という明らかにハッピーエンドの書ではあるが、それを身近な者とする為には、私たちは様々な試みをしていくことになるという事でしょう。時には試練にあわされ、時にはこの上ない喜びを与えられることでしょう。

　聖書というのは宝の詰まった玉手箱のようでもあります。どういうことかと言いますと、どこを取り出してもはじめと終わりがある一編の珠玉の物語であるという事です。今日お読みした詩編22編もそうですが、この短い一編の中に、神への疑いから、神を賛美するものへと変えられていったダビデ王の悔い改めと福音の喜びが完結しているのです。またヨブ記を見れば、その一章一章はどこをとりましても主なる神の近づくための味わい深いレッスンの一コマなのです。そしてヨブは遂に「わたしは塵と灰の上に伏し／自分を退け、悔い改めます」と言いあらわして、神の祝福を受けたのでした。

　このような1コマ１コマに凝縮されている福音を突き詰めていくと、私たちは、今ここに生きる一瞬一瞬が、よき終わりにつながるための、神から与えられた福音の一コマであることに気付かされるでしょう。そして、そのように気付かされる時に、私たちは、キリストの近くにいるのではないでしょうか。

　今日の新約の聖書箇所では、母マリヤと母の姉妹、クロパの妻マリアとマグダラのマリア、そして愛する弟子ヨハネが主イエスの近くに置かれました。主イエスは十字架にかけられ、血を流して苦しまれています。それは誰もが顔を背けたくなるような苦しみの場面でした。しかし、彼ら彼女らは十字架の主イエスのすぐそばに置かれました。そして、イエスは母に、「婦人よ、御覧なさい。あなたの子です」と言われ、それから弟子に「見なさい。あなたの母です。」と言われました。そのときから、この弟子はイエスの母を自分の家に引き取ったのです。この出来事は主イエスの福音の実に具体的な実現であります。

　十字架上の主イエスは、最後に「わたしの神よ、わたしの神よ／なぜわたしをお見捨てになるのか」と詩編22編を口にされましたが、これは主イエスが十字架上でずっと詩編22編を思い起こしていたからでありましょう。最後に主イエスは「成し遂げられた」と言って、こうべをたれて息を引き取られましたが、それは詩編22編のハッピーエンドの成就を告げているかのようです。詩編22編は「命に溢れてこの地に住む者はことごとく／主にひれ伏し／塵に下った者もすべて御前に身を屈めます。わたしの魂は必ず命を得、子孫は神に仕え／主のことを来るべき代に語り伝え／成し遂げてくださった恵みの御業を／民の末に告げ知らせるでしょう」と締めくくられています。

　私たちは日頃、その良い時は何時になった実現するのかと、主なる神に詰め寄ってばかりいるのかもしれません。私たちは、良いことの音連れが自分が思っていた時よりも少しでも遅いと、返って、怒りを覚えてしまう罪な存在です。しかし、私たちは苦しまれる主イエスのそばに置かれて、詩編22編を思い起こすとき、確実にその良き結末が、今ここに実現していることを知るでしょう。

　以上申し上げました聖書に記された福音を私たちは離れてはいけませんが、今日の聖書箇所には、福音から離れていこうとする人々の姿の現実もまた記されています。ポンテオピラトは、最初は主イエスを十字架に付けたくなかったけれども、あまりにユダヤ人が騒ぐので附けてしまいました。また祭司長たちから、「『ユダヤ人の王』と書かず、『この男は「ユダヤ人の王」と自称した』と書いてください」と言われても、書き換えませんでした。これらのピラトの振る舞いはどちらも、イエスキリストへの無関心、主イエスと関わりになりたくないという動機から来ています。

　また、兵士たちは、主イエスの下着をとって、「これは裂かないで、だれのものになるか、くじ引きで決めよう」と話し合ったとありますが、それは、／「彼らはわたしの服を分け合い、／わたしの衣服のことでくじを引いた」という詩編22編の言葉の実現でした。

　このように、主イエスの十字架の時には、いいことも悪いことも実現したのです。この十字架の場面で、兵士たちは衣服の取り合いの為のくじ引きに夢中になって、主イエスのことは無視しています。この兵士たちの姿は、この世の歩みにおけるわたしたち自身の姿にも較べられるでしょう。私たちは、日々の生活においてつまらないことに夢中になって、お互いにくじを引き合っていないでしょうか。そういわれれば誰しも思い当たる節があることでしょう。

　わたしたちの救いは、このくじ引きの場面が詩編22編のちょうど中ほどにあるという事です。この場面の後、ハッピーエンドに至るまでにわたしたちには幾度でも、悔い改めて、いつまでも健やかな命が与えられる機会が与えられるのです。

　わたしたちは、この受難日という最も苦しみの渦中において、再度このことを悟って参りたいと願います。

　来る主日にはイースターの時を迎えます。主イエスの御自身もわたしたち人間と同じように、塵に返られ、墓に葬られました。塵に返られたイエス様に、主なる神は、命の息を吹き入れられ、よみがえらせます。このようにして主イエスの福音を信じる者はすべて、このよみがえりにつなががるものとされるのです。この３日間という短い日々の間に、聖書の天地と人間の再創造の出来事が凝縮されているのです。わたしたちの目には、永遠の出来事が3日の内に完成する等とは奇跡以外の何者でもないでしょう、それは人間の思いと人間の力を越えて実現される神の業に他ならないからです。わたしたちは如何に頭をフル回転させても、その御業を理解することは出来ないでしょう。そんなわたしたちに出来ることは、今、ここで、詩編22編の物語を、十字架上で苦しまれる主イエスと共に思い起こすことです。その時、父なる神の御心に、最後まで謙遜に従い続けた、主イエスの御言葉が、わたしたちにも聞かれて、今この時のハッピーエンドにわたしたちは入れられることでしょう。

お祈りいたします。

天にいますわたしたちの父なる神よ

この御子の受難という特別な時にわたしたち兄弟姉妹を御前に招いてくださり、ありがとうございます。御子は、十字架の死を遂げられるまであなたの御心に謙遜に従い、遂に完全な死を成し遂げられました。どうか、わたしたちも、御子の謙遜に倣い、最後まであなたの御心に従っていくことが出来ますように。

また、あなたは、どんな苦難の時でも、御子を見つめ聞き従うものへ、恵みを下されることに感謝と賛美を捧げます。どうかわたしたちに、あなたへの感謝と賛美する心を与え続けて下さいますように。

これから3日間に成し遂げられますあなたの復活の御業を信じて、私たちが御子の復活の姿を喜び祝うことが出来るよう、わたしたちを励まし導いてください。

父と聖霊と共に一体